

グローバル・ハイブリッド 証券ファンド (為替ノーヘッジ型)

追加型投信／内外／債券 日経新聞掲載名：グロハイブ無

第13作成期 2018年6月13日から2018年12月12日まで

第73期 決算日
2018年7月12日

第74期 決算日
2018年8月13日

第75期 決算日
2018年9月12日

第76期 決算日
2018年10月12日

第77期 決算日
2018年11月12日

第78期 決算日
2018年12月12日



受益者の皆さまへ

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として世界の金融機関(関連会社等含む)が発行するハイブリッド証券に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当作成期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

三井住友アセットマネジメント株式会社は、関係当局の認可等を得ることを前提に、2019年4月1日に大和住銀投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三井住友D Sアセットマネジメント株式会社に変更する予定です。



三井住友アセットマネジメント

SMAM

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1
<http://www.smam-jp.com>

当作成期の状況

| | |
|-------------|--------|
| 基準価額(作成期末) | 6,518円 |
| 純資産総額(作成期末) | 923百万円 |
| 騰落率(当作成期) | -1.0% |
| 分配金合計(当作成期) | 245円 |

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さまサービス部 ☎0120-88-2976

受付時間：営業日の午前9時～午後5時

お取引状況等はご購入された販売会社へお問い合わせください。

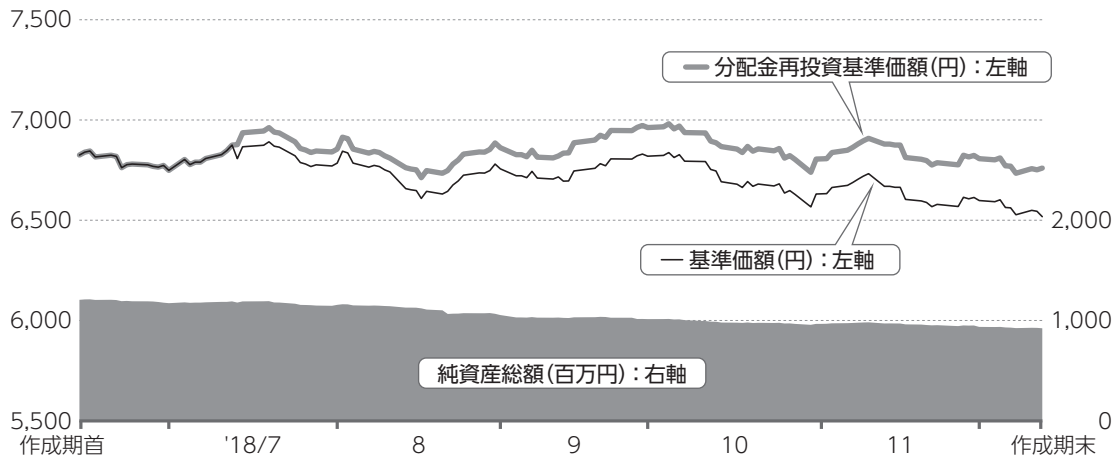
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<http://www.smam-jp.com/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について（2018年6月13日から2018年12月12日まで）

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、作成期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

| | |
|------|--------------------------------|
| 作成期首 | 6,825円 |
| 作成期末 | 6,763円 (当作成期分配金245円(税引前)込み) |
| 騰落率 | -1.0% (分配金再投資ベース) |

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

基準価額の主な変動要因（2018年6月13日から2018年12月12日まで）

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として世界の金融機関（関連会社等含む）が発行するハイブリッド証券に投資しました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

上昇要因

- 作成期を通して見れば、米ドルが対円で上昇したこと

下落要因

- 米金融政策の正常化に向けた動きなどを背景に、作成期首から10月末にかけて、米国長期金利が上昇（価格は下落）傾向にあったこと
- 米中貿易戦争激化への懸念、イタリアの財政不安、英国のEU（欧州連合）離脱問題などから警戒感が広がったことで、ハイブリッド証券のスプレッド（国債に対する上乗せ金利）が拡大したこと
- 作成期を通してみれば、ユーロ、英ポンドが対円で下落したこと

組入れファンドの状況

| 組入れファンド | 投資資産 | 作成期末組入比率 |
|--|-----------------|----------|
| グローバル・サブオーディネイティド・デット・ セキュリティーズ・ファンド(アンヘッジドクラス) | 世界の ハイブリッド証券 | 90.2% |
| マネープール・マザーファンド | 短期金融資産 | 0.1% |

※比率は、純資産総額に対する割合です。

1万口当たりの費用明細（2018年6月13日から2018年12月12日まで）

| 項目 | 金額 | 比率 | 項目の概要 |
|-------------|------|---------|---|
| (a) 信託報酬 | 44円 | 0.655% | 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は6,723円です。 |
| （投信会社） | (16) | (0.233) | 投信会社：ファンド運用の指図等の対価 |
| （販売会社） | (27) | (0.406) | 販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| （受託会社） | (1) | (0.016) | 受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価 |
| (b) 売買委託手数料 | 10 | 0.152 | 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 |
| （株式） | (-) | (-) | 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| （投資信託証券） | (10) | (0.152) | |
| （先物・オプション） | (-) | (-) | |
| (c) 有価証券取引税 | - | - | 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 |
| （株式） | (-) | (-) | 有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金 |
| （公社債） | (-) | (-) | |
| （投資信託証券） | (-) | (-) | |
| (d) その他費用 | 0 | 0.004 | その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 |
| （保管費用） | (-) | (-) | 保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用 |
| （監査費用） | (0) | (0.003) | 監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用 |
| （その他） | (0) | (0.001) | その他：信託事務の処理等に要するその他費用 |
| 合計 | 54 | 0.811 | |

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の費用は後掲の「組入上位ファンドの直近決算概要」をご覧ください。

最近5年間の基準価額等の推移について（2013年12月12日から2018年12月12日まで）

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2013年12月12日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載していません。

最近5年間の年間騰落率

| | 2013.12.12 決算日 | 2014.12.12 決算日 | 2015.12.14 決算日 | 2016.12.12 決算日 | 2017.12.12 決算日 | 2018.12.12 決算日 |
|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (円) | 12,552 | 13,067 | 11,609 | 8,388 | 7,680 | 6,518 |
| 期間分配金合計(税引前)(円) | — | 1,560 | 1,700 | 1,800 | 1,400 | 695 |
| 分配金再投資基準価額騰落率(%) | — | 18.0 | 1.8 | -11.9 | 9.2 | -6.3 |
| 純資産総額 (百万円) | 2,796 | 3,792 | 2,717 | 2,510 | 1,786 | 923 |

投資環境について（2018年6月13日から2018年12月12日まで）

当作成期のハイブリッド証券市場は下落しました。為替市場では、米ドルは円に対して上昇しました。ユーロ、英ポンドは円に対して下落しました。

ハイブリッド証券市場

ハイブリッド証券市場は、作成期初より、移民問題で閣内に対立を抱えるドイツのメルケル政権の分裂に対する懸念や米中貿易摩擦を巡る先行き不透明感などを背景に世界的に株価が下落する中、投資家のリスク回避姿勢が強まり、軟調な展開となりました。

しかし7月に入り、月初に発表された好調な米経済指標やドイツの政治不安が後退したことなどから、世界的に株式市場が堅調な展開となる中、ハイブリッド証券市場は上昇に転じました。

その後、米中の貿易摩擦の激化が世界経済の成長率を押し下げるとの見方がくすぶる中、トルコなどの新興国の通貨が幅広く売られた他、商品市場が軟調な展開となるなど、投資家のリスク回避姿勢がやや高まり、ハイブリッド証券市場は上値の重い展開が続きました。

9月に入ると、イタリアの財政懸念が低下したことや、トルコ的大幅利上げを受けてトルコリラの動きがやや安定し、新興国通貨への懸念が幾分和らいだことなどから、ハイブリッド証券市場はいったん強含みました。

しかし9月半ば以降、米国による対中制裁

関税第三弾の発動や米長期金利上昇などを受け、弱含みで推移しました。さらに11月に入り、米中貿易摩擦の激化や英国のEU離脱交渉の先行き不透明感などから投資家のリスク回避姿勢が強まり、ハイブリッド証券市場は作成期末にかけて軟調な展開となりました。

I C E B of A M L Euro Subordinated Financial Index（現地通貨ベース）で見ると、作成期首に比べ1.20%下落しました。

為替市場

米ドル・円相場は、米国の利上げ継続が意識されたことなどを材料に作成期初より7月中旬にかけて上昇しました。その後、トランプ大統領の米ドル高牽制発言、日銀の金融緩和策修正への思惑、トルコリラの急落に端を発した新興国への不安などを背景に、8月中旬にかけて下落する展開となりました。しかし、その後、NAFTA（北米自由貿易協定）を巡る通商協議で、米国とメキシコが大筋合意（その後カナダとも合意）したことや、総じて好調な米経済指標の発表や長期金利の上昇傾向などを反映し、米ドルが買われる展開となりました。

10月に入り、世界的な株価の調整を背景

にいったん下落しましたが、イタリアの財政問題を受けたユーロ安を受けて米ドルが買い支えられたことなどから、米ドル・円相場は作成期末にかけて底堅い展開となりました。

ユーロ・円相場は、概ね米ドル・円相場に連動する展開となりましたが、イタリアの財政問題やドイツのメルケル首相が次期党首選への出馬見送りを表明したことなどを背景に、10月の下落幅は米ドル・円相場より大きくなりました。11月以降作成期末にかけてはほぼ横ばいで推移しました。

英ポンド・円相場は、概ねユーロ・円相場

の動きに追随する展開となりましたが、作成期後半は、EU離脱問題を巡る報道に左右され、振幅の大きな展開となりました。

当作成期の米ドル・円は、作成期首110円36銭から作成期末113円54銭と3円18銭の米ドル高・円安、ユーロ・円は、作成期首129円66銭から作成期末128円63銭と1円03銭のユーロ安・円高、英ポンド・円は、作成期首147円40銭から作成期末141円96銭と5円44銭の英ポンド安・円高となりました。

ポートフォリオについて（2018年6月13日から2018年12月12日まで）

当ファンド

作成期を通じて、主要投資対象である「グローバル・サブオーディネイティド・デット・セキュリティーズ・ファンド（アンヘッジドクラス）」を高位に組み入れることにより、実質的に世界の金融機関（関連会社等含む）が発行するハイブリッド証券に投資を行いました。

グローバル・サブオーディネイティド・デット・セキュリティーズ・ファンド（アンヘッジドクラス）

当ファンドは、世界の金融機関等が発行するハイブリッド証券のうち、主に投資適格銘柄の組入れによる運用を行いました。作成期中の資金流入に対しては、相対的に投資魅力度が高いと判断された新規銘柄の組入れや、

既存保有銘柄の積増しを図りました。一方、資金流出に対しては、市場へのインパクトや取引コストを最小限に抑えるよう慎重に組入銘柄の売却を行い、対応しました。また、相対価値比較での銘柄入替えなどを一部行い、ポートフォリオの利回り向上を図りました。

● 国別配分

作成期中の国別配分は、作成期初、イギリスに最も多く配分し、次いでフランス、ドイツに配分しました。作成期中、フランス、米国の配分を増やす一方、イギリス、ドイツの配分を減らすなどの調整を行いました。作成期末の配分は、順に、フランス、イギリス、米国としました。

マネープール・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短

期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について（2018年6月13日から2018年12月12日まで）

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について（2018年6月13日から2018年12月12日まで）

当作成期の1万口当たりの分配金（税引き前）は、第73期は前期と同様に70円としましたが、基準価額が下落傾向で推移したことや市況動向等を勘案した結果、今後も継続的な分配を行うことを目指し、第74期から第78期についてはそれぞれ35円に引き下げることにいたしました。

なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

（単位：円、1万口当たり、税引前）

| 項目 | 第73期 | 第74期 | 第75期 | 第76期 | 第77期 | 第78期 |
|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 当期分配金 | 70 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 |
| （対基準価額比率） | (1.018%) | (0.523%) | (0.520%) | (0.520%) | (0.522%) | (0.534%) |
| 当期の収益 | 44 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 |
| 当期の収益以外 | 26 | — | — | — | — | — |
| 翌期繰越分配対象額 | 542 | 554 | 567 | 581 | 594 | 604 |

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」（税引前）の期末基準価額（分配金（税引前）込み）に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

当ファンド

作成期を通じて、主要投資対象である「グローバル・サブオーディネイティド・デット・セキュリティーズ・ファンド（アンヘッジド

クラス）」を高位に組み入れることにより、実質的に世界の金融機関（関連会社等含む）が発行するハイブリッド証券に投資を行います。

グローバル・サブオーディネイティド・デット・ セキュリティーズ・ファンド(アンヘッジドクラス)

米国経済は、税制改革や政府支出増などによる下支え効果が期待されますが、ピークアウトの可能性を示唆する指標も散見されます。よって今後の利上げの回数やペースに対する市場参加者の見方は分かれており、短期的には、主要経済指標の発表に伴い市場の変動が大きくなる場面も予想されます。欧州については、イタリアの2019年度予算の問題や英国のEU離脱を巡る不透明感など、域内の政治リスクが引き続き存在する中、景気拡大を支える内需の持続性が注目されます。

このような中、投資家がリスク回避姿勢を強めた際、ハイブリッド証券市場もその影響を受けることが予想されますが、マクロ経済

面、投資対象企業の信用力に関する基礎的条件が総じて良好であること、また、市場規模の縮小継続によるハイブリッド証券の希少性から需給面での下支えも期待できるという状況にも大きな変化がないことから、中長期的には底堅い展開が予想されます。

引き続き、個別証券の諸条件、市場の動向にはより注視しますが、基本的には現状の組入銘柄を中心に、相対価値比較から一部銘柄の入替え等も考慮に入れ、ファンドの信託期間における利回りの向上を図る方針です。

マネープール・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

3 お知らせ

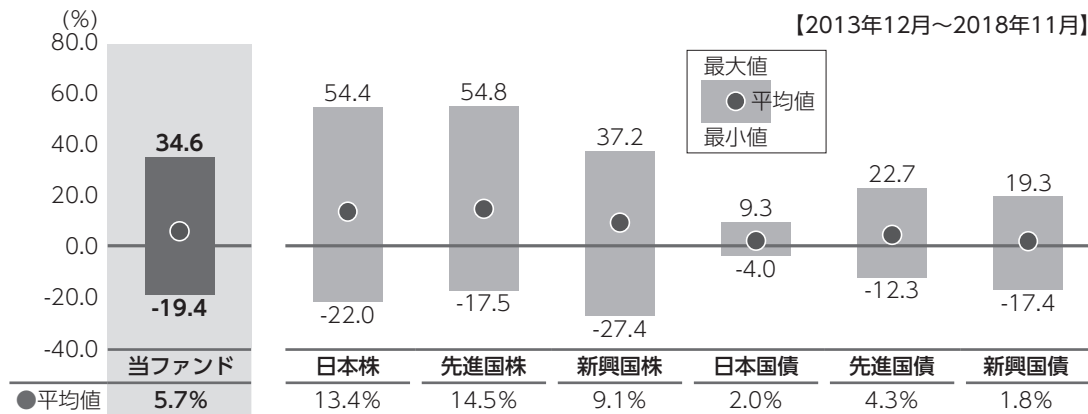
約款変更について

- 一般社団法人投資信託協会規則の「信用リスク集中回避のための投資制限」に適合するよう、所要の変更を行いました。（適用日：2018年9月7日）
- 信託期間を5年延長し、2024年6月12日までとするため、所要の信託約款の変更を行いました。（適用日：2018年9月7日）

4 当ファンドの概要

| | |
|------------|--|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／債券 |
| 信託期間 | 2012年6月27日から2024年6月12日(当初、2019年6月12日)まで |
| 運用方針 | 投資信託証券への投資を通じて、主として世界の金融機関(関連会社等含む)が発行するハイブリッド証券に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。 |
| 主要投資対象 | <p>当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>グローバル・サブオーディネイティド・デット・セキュリティーズ・ファンド (アンヘッジドクラス) 世界の金融機関(関連会社等含む)が発行するハイブリッド証券等</p> <p>マネープール・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品</p> |
| 当ファンドの運用方法 | <ul style="list-style-type: none"> ■世界の金融機関が発行するハイブリッド証券を実質的な主要投資対象とします。 ■投資対象である外国投資信託の組入資産について、原則として対円での為替ヘッジを行いません。 |
| 組入制限 | <ul style="list-style-type: none"> ■外貨建資産への直接投資は行いません。 |
| 分配方針 | <ul style="list-style-type: none"> ■毎月12日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> |

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

| | |
|------|---|
| 日本株 | TOPIX(配当込み) 株式会社東京証券取引所が算出、公表する指数で、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄を対象としています。 |
| 先進国株 | MSCIコクサイインデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。 |
| 新興国株 | MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。 |
| 日本国債 | NOMURA-BPI(国債) 野村證券株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。 |
| 先進国債 | FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。 |
| 新興国債 | JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。 |

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

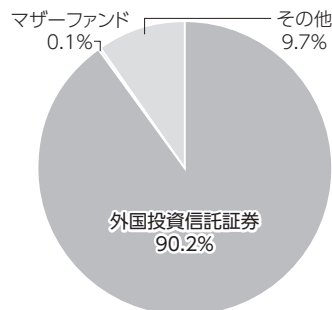
当ファンドの組入資産の内容（2018年12月12日）

組入れファンド等

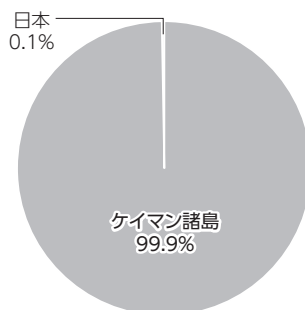
| 銘柄名 | 形態 | 組入比率 |
|--|----------------------|-------|
| グローバル・サブオーディネイティド・デット・セキュリティーズ・ファンド (アンヘッジドクラス) | ケイマン籍外国投資信託 (円建て) | 90.2% |
| マネープール・マザーファンド | 親投資信託 | 0.1% |
| コールローン等、その他 | — | 9.7% |

※比率は、純資産総額に対する割合です。

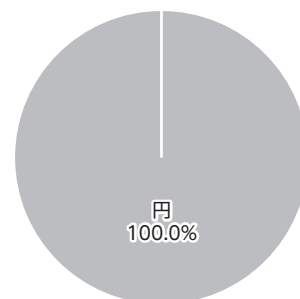
資産別配分（純資産総額比）



国別配分（ポートフォリオ比）



通貨別配分（純資産総額比）



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

| 項目 | | 第73期末 | 第74期末 | 第75期末 | 第76期末 | 第77期末 | 第78期末 |
|------------|-----|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 純資産総額 | (円) | 1,179,487,585 | 1,129,197,732 | 1,026,841,095 | 980,208,275 | 971,147,699 | 923,269,713 |
| 受益権総口数 | (口) | 1,732,775,887 | 1,695,961,500 | 1,533,791,490 | 1,464,733,646 | 1,456,200,886 | 1,416,438,839 |
| 1万口当たり基準価額 | (円) | 6,807 | 6,658 | 6,695 | 6,692 | 6,669 | 6,518 |

※当作成期における、追加設定元本額は31,743,385円、解約元本額は383,489,400円です。

組入上位ファンドの直近決算概要(当ファンドの計算期間とは異なります)

グローバル・サブオーディネイティド・デット・セキュリティーズ・ファンド
(アンヘッジドクラス) (2017年1月1日～2017年12月31日)

基準価額の推移以外は投資ファンドを含むシェアクラスで構成された「グローバル・サブオーディネイティド・デット・セキュリティーズ・ファンド」の情報です。

基準価額(円建て)の推移



※期中の分配金は含みません。

組入上位10銘柄

(2017年12月31日現在)

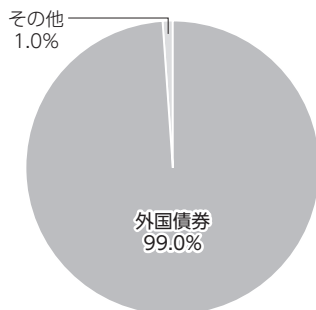
| | 国・地域 | 銘柄名 | 種類 | 利率 | 償還日 | 比率 |
|------|------|--------------------------|--------|----------|------------|------|
| 1 | イギリス | BARCLAYS BANK PLC | 永久劣後債 | 14.0000% | 2019/6/15 | 3.7% |
| 2 | イギリス | AVIVA PLC | 永久劣後債 | 5.9021% | 2020/7/27 | 3.0% |
| 3 | イギリス | STANDARD CHARTERED BANK | 永久劣後債 | 5.3750% | 2020/7/14 | 2.8% |
| 4 | アメリカ | MORGAN STANLEY | 期限付劣後債 | 4.8750% | 2022/11/1 | 2.5% |
| 5 | スイス | CREDIT SUISSE NEW YORK | 期限付劣後債 | 5.4000% | 2020/1/14 | 2.5% |
| 6 | オランダ | ABN AMRO BANK NV | 期限付劣後債 | 6.2500% | 2022/4/27 | 2.5% |
| 7 | イギリス | ROYAL BK SCOTLND GRP PLC | 期限付劣後債 | 6.1250% | 2022/12/15 | 2.4% |
| 8 | ドイツ | MUNICH RE | 期限付劣後債 | 6.2500% | 2022/5/26 | 2.4% |
| 9 | フランス | ENGIE SA | 永久劣後債 | 4.7500% | 2021/7/10 | 2.4% |
| 10 | アメリカ | CITIGROUP INC | 期限付劣後債 | 4.0500% | 2022/7/30 | 2.3% |
| 全銘柄数 | | | 58銘柄 | | | |

※償還日は、繰上償還条項が付与されている場合、原則として繰上償還発効日を記載しています。

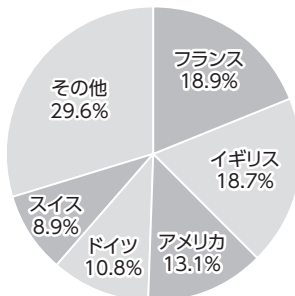
※比率は純資産総額に対する割合

※組入上位30銘柄につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

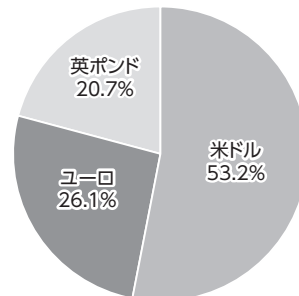
資産別配分（純資産総額比）



国別配分（ポートフォリオ比）



通貨別配分（ポートフォリオ比）



※2017年12月31日現在

（ご参考）組入投資信託に係る費用明細

| 項目 | 比率 |
|--------|------|
| 管理報酬 | 0.5% |
| 事務代行報酬 | 0.1% |
| 保管報酬 | 0.0% |
| その他諸費用 | 0.1% |
| 費用合計 | 0.7% |

※比率は平均純資産総額（期首・期末）に対する費用の割合で、当社算出値

※単位当たり費用明細は入手できるデータがないため記載していません。なお、費用の総額については、運用報告書（全体版）の「包括利益計算書」に記載しています。



ご参考 基準価額と分配金の関係

分配金はファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

| 決算期 | ① 期首基準価額 | ② 期末基準価額 | ③ 分配金 (税引前) | ④=②+③ 分配金込み 期末基準価額 | ⑤=③÷① 期首基準価額に対する 分配金の割合 | ⑥=(④-①)÷① 分配金込みリターン (基準価額騰落率) |
|------|-------------|-------------|-------------------|--------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|
| 第73期 | 6,825円 | 6,807円 | 70円 | 6,877円 | 1.03% | 0.76% |
| 第74期 | 6,807円 | 6,658円 | 35円 | 6,693円 | 0.51% | △1.67% |
| 第75期 | 6,658円 | 6,695円 | 35円 | 6,730円 | 0.53% | 1.08% |
| 第76期 | 6,695円 | 6,692円 | 35円 | 6,727円 | 0.52% | 0.48% |
| 第77期 | 6,692円 | 6,669円 | 35円 | 6,704円 | 0.52% | 0.18% |
| 第78期 | 6,669円 | 6,518円 | 35円 | 6,553円 | 0.52% | △1.74% |



表の見方

「分配金込みリターン(⑥)」とは

期末に支払われた分配金を含めた、当期のファンドの運用成果を表しています。

「分配金込みリターン(⑥)」と「期首基準価額に対する分配金の割合(⑤)」の関係

⑥>⑤の場合



分配金は主に当期の運用成果から支払われています。

⑥<⑤の場合



分配金は当期の運用成果を超えて支払われており、「期末基準価額(②)」は「期首基準価額(①)」と比べて下落することになります。

当期のファンドの運用成果は、お客さまの保有期間に応じた運用成果とは異なりますのでご注意ください。